



グリーン交悠録

素晴らしき哉ゴルフ 国策研究会「青葉ゴルフ会」 の思い出

本誌主幹
犬中吉一

酷暑のゴルフ、 やめる勇氣も大切

ここ10年来、40℃を越すような気温が珍しくなくなり、夏のゴルフも少し考えなければならなくなってきました。私もかれこれ年齢73歳。「酷暑」の中のプレーは、年齢的にも日々厳しくなってきました。夏の酷暑と冬の極寒の下での18ホールは、どちらも体に厳しい条件となってきました。時にはプレーを断念するという選択も大切であるという私の提言をお心に留めていただければと思います。

ゴルフは、朝の8時30分頃にスタートして15時30分頃にホールアウトする。そして19番ホールでのその日のゴルフを語るとき、ナイスショット、OB、パッティング：さまざまその日のプレー中の話題とともに、当日のメンバー各位の人間性や、性格、人生観などが見えてきます。

ところが昨今は18番ホールをホールアウトするとそのままロッカールームに直行し、せいぜいチョコレートのやりとりぐらいでそそくさと帰路に着いてしまう。これでは

せっかく1日ご一緒させていただきお互いを理解しあうというチャンスが無くなってしまいます。ぜひ、19番ホールを共にすることの大切さを再認識していただきたいと思えます。

私も53年間ゴルフをやってきました、コースで知り合った皆さんとの交流の中から、意外に気の短い方、思いのほかのんびりしている方、などなどさまざまな人物像を拝見するチャンスをいただきました。赤坂や新橋の料亭での交友や、その後の銀座界限での夜の宴における交流などとともに、ゴルフ、特に19番ホールでは人物観察ができます。そうした経験から、最近では「人物評論家」という名刺を時々みなさんにお見せしているのをご存知の方もいらっしゃると思います。

およそ50年前の

「青葉ゴルフ会」

さて、手元の資料を見ていたら懐かしいものを発見しました。国策研究会の矢次一夫氏が主催する「青葉ゴルフ会」第30回のレポート記事です。矢次氏は国策研究会を興した方で、国士として政財界のさまざまな

第30回青葉ゴルフ会 参加者芳名

岸 信介	元総理
稲垣 登	三井物産副社長
大久保武雄	衆議院議員
木村 寿郎	弘亜社社長
鍛冶田 進	鍛冶田商会社長
片貝 光次	岸元総理秘書
後藤 太郎	日興電機工業社長
篠島 秀雄	三菱化成社長
高木 進	白石基礎工事副社長
田中 竜夫	衆議院議員
所 敬之	関東電気工事会長
永野 重雄	富士製鉄社長
中村 長芳	岸元総理秘書
細川 隆元	政治評論家
本間 嘉平	大成建設社長
山田 直枝	大林組社長
山本 武幸	山武自動車社長
渡辺武次郎	三菱地所社長
大中 吉一	財界通信社
矢次 一夫	本会常任理事

問題に関与した方で、事あるごとに政財界に苦言を呈してきた方でもありました。日本における労働運動の大家で、キックコマンや三菱電機、三菱重工業などの労働争議をまとめた方です。その矢次一夫氏が主催した「青葉ゴルフ会」はすでに377回を数え、今でも年6回のペースで開かれています。出てきた資料は国策研究会の会報誌「新国策」に掲載されていたもので、昭和45年2月に行われた青葉ゴルフ会の記事です。このゴルフ会には不肖大中吉一も若干22歳で参加させていただき、まさに19番ホールで岸信介元首相や渡辺武次郎三菱地所社長など錚々たる皆さんと談論風発、様々な交流をさせていただきましたことを覚えています。まさにゴルフならではの交流だった

第30回青葉ゴルフ会開かる
―矢次氏が「岸会長杯」決勝戦で優勝―
 去る2月18日(土)青葉会第3次シリーズ決勝戦と第4次1回戦が川奈ホテル富士コースにおいて開催された。
 当日、決勝戦の出場者は、昨シリーズ第1回優勝の江口氏に始まり、以下2回山本、3回矢次、4回フワレル比国大使、5回鈴木、6回所、7回稲垣、8回中村、9回陳中国大使付武官、10回山田、11回山田、12回大村の各優勝12氏。このうちラウレル大使、陳武官、江口、鈴木、山田の5氏がそれぞれ所用のため不参加になったので、残る7氏によって岸会長杯

と思います。
 全文引用しますのでご覧ください。

が争われた。
 また今シリーズ・トーナメントの方は岸会長をはじめ、大久保氏、田中氏、細川氏のはりきり組と、ひさびさに参加の永野富士製鉄社長を迎え、決勝戦組と合わせて計19氏が当日参加された。
 まずゴルフ会に先立ち、17日夜開かれた川奈ホテルでの夕食会には岸、大久保、田中の3氏は国会の都合で欠席されたが、他の各氏により賑やかに開催された。席上、事務局より出席者一同に相談の上組合せ、ルールその他の協議が行われ、午後8時過ぎ盛會裡に夕食会は開会された。
 さてゴルフ会は夕食会の席上決められた組合せに従がい、翌18日8時6分、稲垣、大村、中村、山田のベテラン4氏の決勝戦組第1組がまずスタートされる。ついで第2組も決勝戦組で、所、山本、矢次の3氏とトーナメント組の鍛冶田氏がこれに加わり、それぞれ元氣一杯スタートされる。
 このあと第3組からトーナメント組の岸会長をはじめとする他の各氏がつづく。
 当日は、前日までの冷たい風も止み、好天に恵まれまことにゴルフ日和といった所。しかしプレーの方は各氏とも懸命で熱戦が展開された。

アウトを終了して決勝戦組では稲垣氏が41、また、トーナメント組では高木氏が41で共に素晴らしい成績で他の各氏に差をつける。
 しかし、インに入ってから稲垣氏は中盤でちょっと崩れ、結局インの成績は51となりクロス92、ネット82で、ネット80の矢次氏にトップを奪われる。
 トーナメント組は、高木氏がインを47でまとめ、ネット71で見事他の各氏を引き離し1位となる。
 プレー終了後午後1時より商品授与式が行われ、まず矢次氏が、岸会長から「岸会長杯」を受け取られる。ついで第4次第1回目の優勝者高木氏に、今回から始まる新しい「岸会長杯」レブリカが岸会長から渡される。
 また2位の「中華民国大使杯」はハンディを元に戻しネット75の矢次氏が獲得するところとなり、1度に2つもカップを手にした同氏に各氏から羨望の入った大拍手が送られた。
 このあと次の打合せが行われ3月はスリー・ハンドレッド・クラブにて、25日(土)10時スタートで開催されること申し合わせられ、午後一時半盛會裡に閉会した。